



# 国際評価基準審議会 (IVSC) 年次総会等報告

国際評価基準審議会評議員  
日本公認会計士協会相談役

せきね あいこ  
**関根 愛子**

## I 概要

2022年9月16日(金)に国際評価基準審議会(International Valuation Standards Council: IVSC)年次総会が開催され、それに先立ち、9月14日(水)から、各基準理事会や評議員会のほか、関連会議が開催されたため、年次総会及び関連会議について報告する。今回はアメリカ合衆国フロリダ州フォートローダーデールにて、3年ぶりの対面開催となり、日本からは評議員会のメンバーである筆者が参加した。

なお、本稿に加え、岩田宜子会員による事業評価基準理事会の活動紹介も掲載しているので、併せてお読みいただきたい。

## II 年次総会<sup>1)</sup>

### 1. 2021年の議事録承認

議事は、評議員会(Board of Trustees)議長であるAlistair Darling卿(元英国財務大臣)が進行を行うこととなっているが、今回は、エリザベス女王崩御に伴い英国に留まることになったため、リモートでの参加となり、現場での進行は

評議員会のメンバーであるKathy Casey氏が行い、2021年の年次総会の議事録が承認された。

### 2. 基準レビュー理事会からの報告

基準レビュー理事会(Standards Review Board: SRB)は、各ボードに戦略的なガイダンスを提供し、調和を図り、評価専門家の声を発信する役割を担っている。

SRB議長のMark Zyla氏(米国)から、1年間の具体的な成果として、国際評価基準(International Valuation Standards: IVS)の改訂や様々なパースペクティブ・ペーパー<sup>2)</sup>を発行したことが紹介された。

IVSの評価プロセスにESGを組み込むことは既に暗黙の要件となっており、事業評価と有形資産の視点からESGの定量化を考慮したESG関連のパースペクティブ・ペーパーの発行も行っている。

また、評価機関や投資家、評価者へのサーベイを通して、評価プロセスにおけるESGのさらなる考慮事項や要望を取りまとめるESGワーキンググループを立ち上げた。サーベイの回答は、将来のIVSの改訂に役立てられる。

SRBは現在、IVS500「金融商品」の章の公開草案の公表に向けて取り組んで

いる。IVS500「金融商品」の章の改訂は、2022年度の重要なプロジェクトとなる。

### 3. アドバイザリーフォーラムからの報告

アドバイザリーフォーラム(Advisory Forum)は、各国の評価専門職業組織(Valuation Professional Organization:VPO)共通の関心事について議論の仲介を行うとともに、各ボードに対して助言を行っている。

アドバイザリーフォーラム議長のJohn Martin氏(オーストラリア)からは、この1年はCovid-19が評価に与える影響について、四半期ごとにウェビナーを開催した旨の報告がなされるとともに、今後も四半期ごとのウェビナーの開催を通じて、サーベイを通して明らかになった重要なトピックの提供に取り組み続けることなどが示された。

### 4. 財務報告

監査済みの財務諸表、次期監査人、次期収入見込み及び予算案の説明があり、承認された。

なお、詳細については、IVSCのウェブサイトにおいてアニュアルレポート<sup>3</sup>が掲載されているので関心のある方は参照されたい。

### 5. 評議員会からの報告

評議員会議長のAlistair Darling卿からは、この1年はCovid-19の世界的大流行で大変な時期であったが、証券監督者国際機構(International Organization of Securities Commissions:IOSCO)との関係強化やアジアオフィスのシンガポールへの設置に向けて取り組んだことが述べられた。その他の主要な活動として、2021年6月に、2022年1月より適用となるIVSの改訂版の公表や、年次で開催しているウェビナーを挙げた。

6年の任期の満了によるAnton

Colella氏(英国)、Alan Johnson氏(ポルトガル)、Kathy Casey氏(米国)、Howard Wetston氏(カナダ)の4名の退任が報告され、Japheth Katto氏(ウガンダ)、Marcelo Barbosa氏(ブラジル)、Narayan Seshadri氏(インド)の3名の就任が承認された。

## III 関連会議

### 1. Update from the technical standards boards (2022年9月15日)

年次総会に先立ち、別個のセッションとして、各基準理事会からのアップデートがあった。このセッションはIVSC会員以外にも公開される形で行われ、IVSCの基準レビュー理事会及び3つの基準理事会の議長及びテクニカルディレクターから、各理事会における検討状況に関する説明がなされた。

#### (1) 基準レビュー理事会(SRB)

SRB議長のMark Zyla氏からは、主に2021年以降の公表物と、IVS一般基準の改訂プロジェクトに関する説明がなされた。

2021年にはIVS230「棚卸資産」やIVS500「金融商品」の公開草案、ESGや企業や不動産の評価に関するパースペクティブ・ペーパーを公表した。2022年はこれまでに無形資産やESGに関するサーベイ結果に関するパースペクティブ・ペーパーを公表し、今後は引き続き無形資産やESGと不動産評価に関するパースペクティブ・ペーパーの公表を予定している。

IVS一般基準の改訂プロジェクトは、IVSCの優先事項のうちの1つである。IVS一般基準の改訂は、基準の利用者や、評価者、企業、規制当局、投資家等その他の利害関係者に対し、一般基準とそ

れぞれの資産に関する基準の相互関係をより明らかにする。このプロジェクトは、全ての専門分野に適用される合意された評価プロセスに従った既存の一般基準を修正するものである。また、価値決定に当たってさらに重要となっているインプットやデータ、モデルについて、重要な要素として追加するための基準の更新も目的としている。

なお、今のところIVSの一般及び各資産の基準の公開草案の公表を2023年4月、2024年7月31日に適用となるIVSの公表を2024年1月に予定している。

#### (2) 事業評価理事会(BVB)

BVB議長のRichard Stewart氏(オーストラリア)と、テクニカルディレクターのKevin Prall氏から説明が行われた。

BVBは継続して自己創設無形資産に関するパースペクティブ・ペーパーを公表している。BVBは3部構成の第2弾として「Human Capital Introspective」を公表した。人的資本がテーマとして選ばれた背景には、近年の価値創造モデルにおける人的資本の重要性の高まりや、諸国におけるESGの企業戦略や労働力不足の状況が存在する。

また、BVBは国際サステナビリティ基準審議会(ISSB)のコメントレターの通読やIASBやISSBメンバーとの調整を通して、次のステップの検討を行っているとのことであった。

#### (3) 金融商品理事会(FIB)

FIB議長のThomas Lee氏(カナダ)とテクニカルディレクターのDoug Summa氏から説明が行われた。

FIBはIVS500「金融商品」の改訂を引き続き進めている。改定の対象となっている領域は、ガバナンス、データ、評価手法・モデル、統制・報告の4つである。

FIBはSRBとともに、改訂IVS500が一般基準の改訂プロジェクトに適合したものとなっているかどうかを検証している。また、FIBは中小企業がIVS500の要求事項を適切に満たせるようにするためのガイダンスを検討している。なお、FIBは公開草案の公表について、今のところ2023年第2四半期を見込んでいる。

#### (4) 有形資産理事会 (TAB)

TAB議長のBen Elder氏(英国)とテクニカルディレクターのAlexander Aronsohn氏から説明が行われた。

TABは2022年、IVS一般基準の改訂プロジェクトやIVS資産等別基準の改訂プロジェクトのほか、ESGやIVS300「機械設備・装置器具」などに取り組んできた。

TABは今後、IVSアジェンダ・コンサルテーションと結果概要に加えて、商用リースやESGのトピックに取り組む予定である。

## IV おわりに

日本公認会計士協会は、主に事業評価

(企業価値評価)に関する情報収集及び意見発信等を目的として2016年にIVSCに機関メンバー(Institutional Member)として加入した。また、日本不動産鑑定士協会連合会は、VPOメンバーとして加入している。IVSCが取り扱っている、又は取り扱う可能性のある評価対象資産は、事業、不動産、金融資産、機械装置、のれん、自己創設無形資産、アーリーステージの企業、棚卸資産、生物資産、採掘産業、アートなど多岐にわたり、現在のところ、評価全般に関する基準を扱う有力な国際組織はほかに存在していない。

IVSCは、ESGや長期価値のように世界的に注目されているテーマについても継続して議論を進めている。2022年10月にはIOSCOと協力文書を締結する<sup>4</sup>など、規制当局や投資家や他の基準設定主体等との連携により一層力を入れている。そのため、IVSCが示す基準が将来的に有力となっていく可能性があり、国際的な動向を注視していく必要がある。

IVSCからのe-Newsを受け取ることにより、上述のようなオープンセミナーを

含む、評価に関する専門情報を入手することができるので、関心のある読者の方は、登録を検討されたい。

#### <注>

- 1 次回の年次総会は、本稿の執筆時点では2023年10月にパリで開催する方向で検討されている。
- 2 パースペクティブ・ペーパーは、IVSに関連する、評価のトピックや新たな課題についての議論を開始し促進することや、基準設定者の視点からトピックに関する情報を提供することなどの目的でIVSCから随時発行される文書と位置付けられている(IVSやその公開草案ではない。)
- 最近では、ESG、のれん、市場価値、社会的価値に関してのパーспекティブ・ペーパーが発行されている。
- 3 <https://www.ivsc.org/wp-content/uploads/2022/09/Annual-Report-April-2021-March-2022.pdf>
- 4 IOSCOのプレスリリースを参照 <https://www.iosco.org/news/pdf/IOSCONEWS664.pdf>